

グローバル・キャリア・デザイン3 (FSP北米) 報告書

学部：文学部 学年：1年（参加当時）

1. 学習成果について

今回のプログラムには、主にキャリアデザインを描くきっかけを求めて参加した。達成目標は、将来の自分を具体的にイメージし、それを達成するためのプランを立てることと、働くことに積極的な気持ちを持てるようになることであった。最もよく達成できたのは、働くことに対して積極的な気持ちを持つということだと思う。以前は働くことに興味や憧れを持てずにいたが、現在では新たにアルバイトを始めたり北大のキャリアセンターを利用したり、「働く」ということへの意識が変わったと思う。そのような成果を得るのに大いに役立ったのは、協定校の学生との交流であった。当初考えていたとおり、企業訪問での講演で生き生きとした働く人に出会い、お話を伺うことで感じたことも多かった。しかし、それ以上に、現地学生とのキャリアについての会話が刺激となったと思う。より身近な同年代の学生は将来についてどのようなビジョンを持っているのかという話はとても興味深かった。将来の事が曖昧なのはわたしだけで、皆はっきりとしたなりたい職業を持っていたので驚いた。日本語教師や翻訳家、ALTなど、大学での専門を生かした職業に就きたいと考えている人が多いのにも驚いた。皆が楽しそうに将来について語ってくれたのが印象的であったし、うらやましくもあった。わたしも将来の夢について一緒に語ることでできたらよかったのになと思った。

しかし、将来の自分を具体的にイメージするというのは、想像以上に難しい目標であった。企業訪問で出会った方がみなそれぞれ違った職業観を持っていらしたように、働くというのはい様でないということが今回わかっただけでも良かったのではないかなと思う。

さらに、出国前には予期していなかった貴重な体験をたくさんできて良かった。アメリカに実際に行ってみて最も強く感じたのは、相手のバックグラウンドを理解することの重要性だった。アメリカは、それぞれ異なったバックグラウンドを持った人が集まっている diversity の国だと思った。例えば、協定校の学生交流で出会ったある学生は、ご両親がヒスパニックであった。そのためタコスを食べると懐かしい気持ちになる、と彼女が話していたのが印象的だった。それはわたしが勝手にイメージしていたアメリカ人像とは大きく異なっていたので、同じアメリカという国に住み同じ英語という言語を使っている人々でも、「アメリカ人」としてひとくくりにできないのだと実感した。ひとりひとり異なるバックグラウンドを持った人が集まっている。そこが日本と大きく異なっているポイントだと思ったし、実際にアメリカに来てみないと感じられないことだったと思う。以前から異文化理解の重要性を理解していたつもりではあったが、人と意思疎通をするために相手の背景知識を事前に理解することが必要だと身をもって知ることができた。

2. セカンド・ステップに向けての行動計画について

まずは、ずいぶん前に買ってからまだ手を付けていなかった TOEFL iBT のテキストを勉強し始めた。なかなか難しいと感じたので、すぐにテストを受けることはできないと思う。しかし、年度内には受験できるようにしたい。初めて受験するので、スコアにはこだわらず雰囲気になれることができれば良いと思う。一回きりにせず、受験し続けることが重要なのではないかと思う。そのためにも、英語演習の授業も取り続けて、英語から離れないようにしたい。そう思えるようになったのは、アメリカは人と人のコミュニケーションをととても大切にしている国だと強く感じたからだ。店員との会話など、ちょっとしたやりとりや相槌がすごく難しく、思ったように会話を楽しめなかったのが悔しかった。そこで初めて英語の必要性・重要性を感じた。大学での学習や将来のビジネスのためではなく、楽しくコミュニケーションをとるために英語が必要だと思った。そう思うと、英語学習への取り組みも、以前より積極的になれると思う。

また、1年生の時に学んだ中国語の学習を、中国語演習の授業を今後も受講することで続けていきたい。このプログラムを通してコミュニケーションツールとしての言語の重要性を感じたので、英語だけでなく他言語も学んでおいたほうが良いと感じたからだ。帰国後には、中国語検定を受験した。今後も継続して検定を受験したり留学生と会話するなどして、学んだことを試す機会を持っていきたい。

今回のプログラムによって留学への不安が減り、海外で学ぶということを実感できた。次回は短期の留学に挑戦してみたい。なぜなら、長期の言語留学をするよりも、短期で様々な地域に行ってそれぞれの違いを感じることを目的とするほうが自分に合っていると感じたからだ。北大のプログラムでは、サマー・スプリングプログラムに特に興味を持った。高校生の時からニュージーランドに興味があったので、このプログラムを利用してニュージーランドで英語を学ぶのも良いかなと思う。また、日本語教育にも興味を持ったので、CIEE のインドネシアで日本語のクラスをサポートするボランティアにも興味を持った。まだアジアに行ったことがないので、このボランティア活動を利用してアメリカとはまた違った国に行ってみるのは良い経験になると思う。

また、今回のプログラムに参加してみてコミュニケーションの大切さを実感した。日本語継承校のクラスでは、生徒同士が自然にほめあっていて、ほめることもコミュニケーションの一つなのだと感じた。そこで、以前から興味があった「ほめる達人検定」を受験した。この検定は、自分なりの観点から相手の良さや物事の価値を発見する力をつけることを目標としているらしい。この機会に、ほめることを円滑なコミュニケーションを助けるにできれば良いなと思う。

以上のように、本プログラムに参加して感じたことをもとに、いくつかのアクションを起こすことができた。事前・事後研修も含めたすべてのプログラムを通して得た経験が、行動の原動力となったことは間違いない。これらの小さなセカンド・ステップを、サード、フォース・ステップへとつなげていきたい。

3. 今後の進路について

自分の可能性を狭めないで、直観に従ってチャレンジしてみることが大事だと思った。大学に入学してから自分の興味関心のある分野が定まっていなことに不安を感じていたが、自由に視野を広めていくことも重要であると思えるようになった。

また、以前は大学院に進学するつもりはなかったが、アミール偉さんのお話を伺ってからは今後何があるかわからないと思うようになった。というのも、学部の講座を選択するときに同じような経験をしていたので、アミールさんのお話に強く共感しからだ。わたしは日本史を勉強したくて大学に入学したので、2年生からは日本史学講座に所属するつもりでいた。しかし、今までほとんど興味がなかった人類学の授業を1年生の後期で偶然受講することになり、それがきっかけで人類学に興味を持ち、2年生から人類学の講座に所属することにした。このように、自分の専門にこだわらずにいれば意外な出会いがあるかもしれない。自分が人類学を学ぶなんて大学入学時には想像もできなかったことなので、人生何があるかわからないなと思った。就職に関しても同じで、大学での勉強に励んだり職業についての情報収集をしたりするうちに、どこかで夢中になれる職業に出会えるかもしれない。焦らずに視野を広げていこうと思う。

4. 自由課題活動などで得られたこと

ポートランド日本語継承校でのボランティア活動が印象的だった。実はわたしは以前から日本語教育に興味があり、それに関する授業を受講していた。国際本部での授業も見学したこともあり、UMassでも日本語のクラスを見学していたので、日本語教育の授業をある程度イメージすることができたが、継承校での授業は想像とは異なっていた。

例えば、少人数のクラスで一人一人の意見を聞いている点。教科書などは使わず、自然な会話の中で日本語を使っている点。発表や作品作りなど、各自が自由に個性を磨くことができる授業内容だった点。これらの点が予想とは異なっていたので、面白いなと思った。

普通の学校での宿題に加えて継承校での宿題が出されるので大変だと思う。だが、継承校での授業が楽しいものであるから生徒の皆さんは継承校に通い続けられるのかなと思った。

授業中は、生徒の皆さんとコミュニケーションをとる機会をたくさん設けてくださったのがありがたかった。初対面のわたしにも生徒の皆さんは丁寧に話してくれてとても嬉しかった。実際に一人一人話をさせていただいて日本語の上手さに驚いたし、コミュニケーションをとることの楽しさを改めて感じた。

そもそも継承校では、生徒は親から受け継ぐ言語として日本語を学んでいる。わたしは日本語を話すことが当たり前になっていたが、日本語も親から与えられた物なのだなと思うと感慨深かった。

日本語継承校での活動で、より日本語教育に興味を持った。今後は、文学部には留学生

を支援するチューター制度があるので、それに応募する予定だ。その活動内容は、日常会話とマナーの解説、レポートなどの日本語の訂正などであるらしい。これを通して留学生との交流を深め、自分も日本語や日本文化について学びなおすことができれば良いと思う。

5. FSP参加を考えている人へのメッセージ

想像していたよりもずっとアメリカは怖くありませんでした。実際にその国を訪れてみないと勝手に抱いていた偏見を無くすことができないと思います。たとえ偏見を持っていないとしても、その国に来てみないとわからないことは本当にたくさんあります。時間がある大学生のうちに、チャンスを活かしてみしてほしいです。

このプログラムは2週間という短い期間なので、その国について深く知ることは難しいかもしれません。でも、短期間の滞在だからこそ、その国の空気感を新鮮に「体で感じる」ことができると思うし、それが大きな魅力だと思います。

海外留学に興味がある人の、挑戦したいという気持ちを手厚くサポートしてくれるのがFSPです。初めての海外であれば、わからないことや不安なことがたくさんあると思います。このプログラムなら事前研修で疑問点を解決できるし、メンバーと引率者みんなで行くので安心です。また、FSPの事前事後研修では次回留学するときにも役立つ情報をたくさん学ぶことができます。そういった点でFSPは次につながる最高のファーストステップになると思います。

わたしも出発前はとにかく不安で不安で仕方なかったのですが、実際アメリカに着いて生活してみたら案外大丈夫でした。そんなものだと思います。「楽観的に構想・悲観的に準備・楽観的に行動」してみると、想像もできなかった新しいことに出会えます！ぜひFSPで今まで知らなかった世界を体感してみてください！